

○ 本校の概要

- * 学校規模(児童数437名、通常学級15、通級指導学級3(言語2、弱視1)、特別支援教室1(拠点校)、教員29名)
- * 校内研究:主題「自ら課題を見付け、わかる・できる楽しさや喜びを感じられる児童の育成」体育科の研究2年目 大田区教育委員会教育研究推進校1年目
- * 特色ある教育活動:○大田区学習効果測定を分析して作成した「授業改善推進プラン」に基づき、授業改善を行い、問題解決的な学習や体験的な学習を積極的に取り入れ、児童の基礎的・基本的学力の向上を推進している。
- 清掃活動を縦割り班で行うなど、異学年と交流を図る活動を実施し、児童相互のよりよい人間関係を育むとともに自主性を培っている。
- 併設の「弱視通級指導学級」「言語障害通級指導学級」「特別支援学級(サポートルーム)」との連携や学校特別支援員の活用、個別指導計画・個別支援計画の活用を通し、特別支援教育を推進している。

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	目標	取組内容	取組指標	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組 今後の改善策	コメント
プラン1 未来社会を創造的に生きる子供の育成	コミュニケーション能力、情報活用能力、ともに生きる力等、これからの社会の変化にかなやかに対応する子どもの力と自信を身に付けます。	外国語教育指導員を効果的に活用し、外国の方々のコミュニケーション能力の育成を図っている。 論理的、科学的な思考力の育成を目指し、「おたのみのづくり」を生かした体験活動や理数授業等を実施する。 学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、ICT機器を活用した授業を実施する。 他者の人権を尊重する人権教育の推進を目指し、人権教育資料等を活用した授業を実施する。 体力テストの結果を踏まえ体力向上全体計画を作成し、計画に基づいた体育指導や「一校一取組」運動や「一学級一実践」運動を実践する。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。 4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。 4:設置教室を使用する全正規教員が週1回以上活用した。 3:80%以上の正規教員が週1回以上活用した。 2:60%以上の正規教員が週1回以上活用した。 1:60%未満であった。 4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。 4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	4: 7 5% 以上	4	○担任と外国語教育指導員と役割分担を明確にして、授業を進めることができた。また、「英会話カフェ」を休み時間に行い、遊びを通してコミュニケーションの能力の育成を図ることができた。 ○「スピーチ大会」や「ものづくりフォーラム」での発表を通し、発表内容を考える過程で、論理的な思考力の育成を図ることができた。また、理科の授業で実験の予想や振り返りを充実させることによって、科学的思考力の育成も図ることができた。 ○電子黒板やタブレットを使った授業を行い、ICTの授業がより身近なものとなった。 ●体力テストの結果を踏まえ、体力向上計画を立て、研究と関連させていくことが来年度への課題である。	○児童が自分のよいところを知っている割合が、75%以上というところは少ない。良く下校時間に行き会おうが、2~3年前より子どもたちが、いきいきと見える。○スピーチ大会はとも良いと思います。○自己表現力を養うためにディベートを実施してみてもどうか。
プラン2 学力の向上	児童・生徒一人ひとりの学ぶ意欲を高め、確かな学力を定着させます。	学習カルテを基に児童・生徒と面談し、一人ひとりの学習のつまずきや学習方法について、指導する。 算数・数学到達度をステップ学習チェックシートで児童・生徒、保護者に知らせる。 学習指導講師等による算数・数学・英語の補習を実施する。 授業改善推進プランを、授業に生かす。 体育科の校内研究の授業研究等を通して、「わかる・できる楽しさや喜びを感じる」ことのできる児童を増やす。	4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。 4:学期に2~3回知らせた。 3:学期毎に知らせた。 2:年度間に1回は知らせた。 1:お知らせできなかった。 4:対象児童・生徒への出席を全教員が働きかけた。 3:80%以上の教員が働きかけた。 2:60%以上の教員が働きかけた。 1:60%以下の教員が働きかけた。 4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。 4:9割以上の学級で「体育が好き」な割合が増えた。 3:8割以上の学級で「体育が好き」な割合が増えた。 2:7割以上の学級で「体育が好き」な割合が増えた。 1:「好き」な割合が7割未満であった。	4: 4 5% 以上	4	○学習効果測定の結果を受け、面談を通して児童への指導を行っている。また学習効果測定に該当しない学年でも毎学期末に各児童に対しての学習、学力の状況を伝え指導している。○学習指導講師による補習学習(土曜日)では、児童、保護者の希望を取って進めている。補習学習(平日)については、教員からの推薦も加味し、保護者の了解をとって数名の教員で個別指導を行っている。 ○授業改善プランの実施は2学期初めから行い、特に体育科では校内研究を通して研究テーマの共通理解を図り授業改善に努めた。他の教科についても毎月のOJT研修等で、授業力の向上を図っている。 ●ステップ学習チェックシートは学期に1回保護者に返却している。東京ベシックドリル診断シートを活用して、一人一人の学習状況を確認している。 ●補習の学習指導講師の人材不足の解消も課題である。	○補習による学力レベルの向上に今後取り組んでほしい。 ○区全体を通して教員不足が深刻化しているようだが、引き続き人材の確保や若手教員のフォローアップ等により教員水準が低下しないよう努めてほしい。 ○社会人に必要な英語の勉強方法を工夫したり、デジタルデバイスを取り入れた教育を実施してみてもどうか。
プラン3 豊かな心の育成	子ども一人ひとりの正義感や自己肯定感、自己有用感などを高めるとともに、自他の生命を尊重する心を育成するなど、未来への希望に満ちた豊かな心を大きく育てます。	小中一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや学校のきまりなどを守ろうとする意識を高める。 道徳教育推進教師を講師とした研修や、国、都及び区の資料を活用した授業等を行う等道徳指導充実のための取組を行う。 学校生活調査(メンタルヘルスチェック)の結果よりストレス症状のみられる児童・生徒に対して組織的に対応する。 学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見等のための取組を実施する。 問題行動・不登校問題等にかかわる児童・生徒に関するケース会議等を実施する。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。 4:学期に2~3回(年間6回)以上行った。 3:学期に1回(年間3回)以上行った。 2:年度間に1回以上行った。 1:実施しなかった。 4:「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。 4:「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。 4:必要な事案に対して必ず会議を実施し、組織的に対応した。 3:必要な事案に対しておおよそ会議を実施した。 2:必要な事案に対してあまり会議を実施しなかった。 1:必要な事案に対してほとんど会議を実施せず、組織的な対応をしなかった。 4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	4: 6 5% 以上	4	○管理職による朝遊びやあいさつ意欲指導をはじめ、全教職員で日々の児童を指導し、また生活指導を行っている。 ○学校行事や全校朝会、学級では計画的な指導を行い、学校のきまり、社会のルールを守るための意義付け意識付けを行っている。 ○道徳授業の確実な実施に向け、週の計画簿の確認、授業観察、夏季休業中には研修会を行った。 ○どの児童も自己肯定感を高められる学校行事、授業、呼びかけを行っている。 ●各道徳資料の提供や日常的な道徳授業の、活性化が図られていないので、管理職を交えてその推進を図ることが課題である。授業の流れ、資料やワークシートの活用等についても改善が必要である。 ●問題行動を起こす児童、不登校児への指導については、校内委員会等を適宜設けて、子ども家庭支援センター、児童相談所、SSWと連携して組織的に取り組んでいるが対応は継続中である。	○ストレス症状のみられる児童への対応や問題行動・不登校等への対応については、「おおむね実施」ではなく、100%実施を目指して頂きたい。 ○「東三小」の良さを生かし、不登校を少しでも減らしてほしい。 ○道徳教育に外部からの人材を積極的に活用してみてもどうか。
プラン4 体力の向上と健康の増進	スポーツに親しむ心の育成や、運動習慣の定着による体力の向上など、生涯にわたって健康増進を図る意識の向上をめざします。	「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組等を通して、児童・生徒や保護者に対し、望ましい生活習慣についての意識啓発を行う。 給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらった「食育」を推進する。 体育的行事、部活動、休み時間など様々な機会を通して運動習慣の確立を推進する。 体育・健康教育授業地区公開講座、学校公開、授業観察で体育や保健の授業を実施し、児童の体力向上や健康に関する意識の啓発を行う。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。 4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。 4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。 4:学級担任全教員が行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	4: 50 人 以上 7 以上	4	○全校で取り組んだ「ランタイム」の実施は目を通うことに児童の取組も積極的に見られ、教員側も組織的指導、共に走る活動を通して大きな声で「がんばり」を叫ぶ姿が印象に残った。 ○保護者への生活習慣、健康体力向上の啓発は体育健康地区公開講座をこれらから実施するが、今後も継続的に呼びかけや指導を伝えていく必要があると感じる。 ●体力テストの結果については昨年並みであったため、校内研究とも連動してさらに取組の工夫や継続が必要である。 ●特に食育については栄養士と教員が連携し、学級、学年そして全校的な取組を進めていく必要がある。	○最近、特に運動場、屋上等で縄跳びや駆け回る声が聞こえて私も元気になります。 ○朝遊びはとも良いと思う。昔は早く学校へ行って遊ぶことは、普通のことであったが、ケガをしたりすることで、学校の責任を問われる現代において、先生方の負担は増えて大変だと思うが、ぜひ続けてほしい。 ○ランタイムはともすばらしい。 ○始業前、休み時間、部活および諸行事を通じ、体力づくりに積極的に取り組んでほしい。福町小・千鳥小と比べ、体力・運動面ではやや劣っている。
プラン5 魅力ある教育環境づくり	児童・生徒が安全・安心に学校生活を送るために、教員の指導力向上と良質な教育環境をつくりまします。	授業公開日の授業評価を、その後の授業改善に生かす。 授業改善セミナー等の研修成果を生かし、主任教諭が助言・支援を行う校内研修等を実施しOJTを充実させる。 各種研究発表会等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かす。 校内委員会等を確実に実施し、学校における特別支援教育を推進する。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。 4:1回以上行った。 3:学期に2~3回行った。 2:学期1回以上行った。 1:実施しなかった。 4:9割の教員(全学級)ができた。 3:7割の教員ができた。 2:6割の教員ができた。 1:6割未満であった。	4: 5 5% 以上	4	○校外での研修、研究会の報告を行う教員が増えてきている。今後はより多くの教員からの報告が行われるよう意識付けしていく。 ○特別支援教育については、通常学級における配慮を要する児童への対応を校外の支援員を交えて組織的に指導する。該当する児童への理解をより深めるために、教員間で子ども家庭支援センター、児童相談所、SSWその他の関係機関と連携してきている。 ●担任とコーディネーターや指導教員との連携を密にすること、校内委員会における情報共有の深化が課題である。 ●各関係者評価や研修、研究を受けての授業改善は校内OJT研修等で行われてきているが、学んだことを授業の計画段階から生かすことが、意識化や評価が顕在化していない。	○今後の改善策については、次年度の取り組みでぜひ具体化して改善して頂きたい。
プラン6 学校・家庭・地域が担う役割などを明確にし、地域に開かれた教育の実現を目指す。また、相互の連携を深め、子どもを育てる仕組みを作ります。	教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、児童・生徒の活動情報等をホームページ等で公開及び更新することにより、積極的に情報を発信する。 地域教育連絡協議会において、児童・生徒の姿等の具体的な資料を作成して、評価に必要な学校の情報を適切に提供し、適正な評価を受けるよう努める。 学校支援地域本部と連携するなどして、地域力を生かした特色ある教育活動を実施する。 学校公開等でセーフティ教室や薬物乱用防止教室を行い、インターネットによる犯罪の被害や非行を防止するための啓発を行う。	4:1回以上更新した。 3:学期に2~3回更新した。 2:学期1回以上更新した。 1:更新しなかった。 4:毎回情報を提供した。 3:おおむね情報を提供した。 2:あまり情報を提供しなかった。 1:情報を提供しなかった。 4:学期に2~3回行った。 3:学期1回以上行った。 2:年1回以上行った。 1:実施しなかった。 4:全ての学年で実施した。 3:4つ以上の学年で実施した。 2:2つ以上の学年で実施した。 1:実施しなかった。	4: 5 5% 以上	4	○ホームページには各基本情報を掲載し、定期的に日々の教育活動なども更新している。アップロードまでの手順がネットワーク上で行えるようになったため、積極的に取り組めなかった教員の取りこぼしが減った。 ○校外宿習学習の様子や情報を緊急メールや即日配信している。今後継続していきたい。 ○学校支援地域本部主催の活動が充実しており、児童も満足している。 ●保護者の学校評価の中にもより積極的なホームページの活用を求める声が上がっている。更新頻度もさることながら、紙媒体へのURLの掲載や、さらなるコンテンツの充実も課題である。	○地域との連携について、若干地域との温度差が感じられるので、より良い連携方法の実現に向けて、引き続き地域の方々のコミュニケーションに努めてほしい。 ○先生方が向上心をもって教育にあたって下さっていることはすばらしい。集団である以上いじめは必ずあると思うが、重症化しないよう、学校と地域・家庭と連携を深めてほしいと思う。 ○地域との交流は充実した活動がなされています。 ○不登校児童に対する問題意識や対応の仕方の共有理解が必要では。	
						* 保護者アンケート回収数 278	

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。
 ○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめて行う。
 ○学校関係者評価の「評価」は、A:自己評価は適切である B:自己評価はおおむね適切である C:自己評価は適切ではない D:評価は不可能である の4点について、評価した